

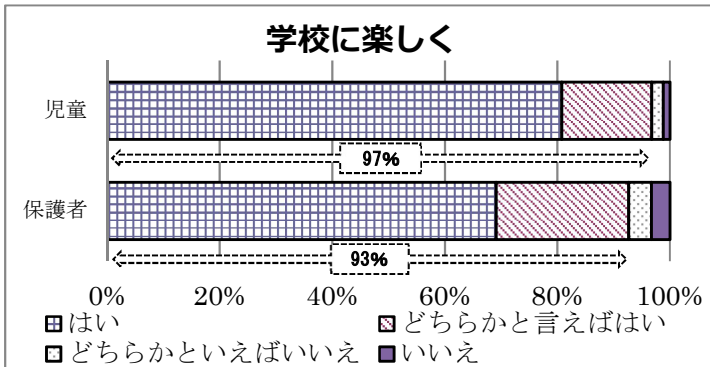
本校の教育活動について、児童・保護者にアンケートをとり、今年度の反省・課題、来年度の方向性についてまとめました。ご協力いただき、ありがとうございました。

※ 一昨年度から、保護者の皆様には、用紙への記入ではなく、「あいあいシステム」によるアンケートに変更させていただいています。今後とも、ご協力お願いいたします。

学校に楽しく通う

児童への質問「学校で過ごすのは楽しいですか」

保護者への質問「学校に楽しく通うことができていると感じられますか」



児童については97%、保護者については93%が「楽しい・どちらかと言えば楽しい」と答えています。この数値は、名古屋市全体の数値(96%「令和3年度 学習と生活についてのアンケート [児童]」より)と比較しても高い値を示しています。

児童の記述からは、「授業が楽しい」「みんなと仲良く過ごせて楽しい」等、学校生活を楽しんでいる様子が伝わるものが数多くありました。

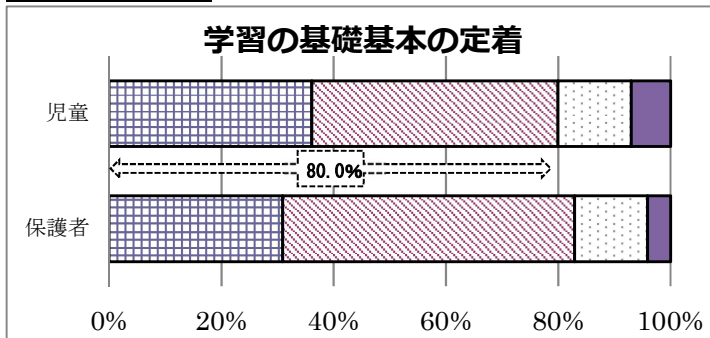
学校生活は学習だけでなく、休み時間や給食など、様々な場面で「楽しさ」を感じることができますが、「本当の楽しさ」とは授業で得られるものと考えています。児童も保護者も、できるだけたくさんの方が「学校が楽しい」と思うことができる学校を目指して、授業の質を向上させていきたいです。

学校生活は学習だけでなく、休み時間や給食

学習の基礎・基本の定着

児童への質問「漢字を読んだり書いたり、計算をしたりすることがよくできると思いますか」

保護者への質問「学習の基礎基本が定着していると感じられますか」



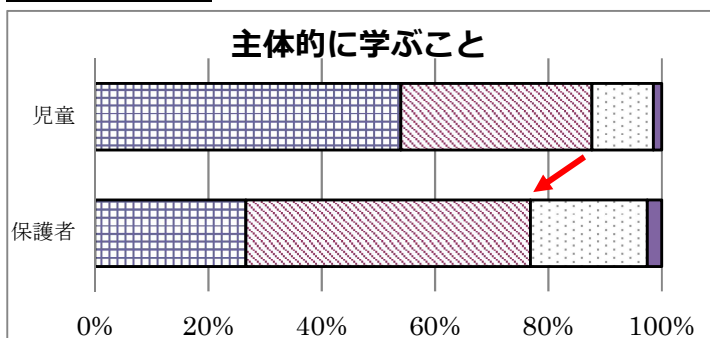
一昨年度までの3年間、学校努力点テーマを「分かった!できた!楽しい!」を実感できる授業を目指して」として、学習の基礎・基本を定着させ、良さを認め合うことを手掛かりとした学び合いをさせながら、できる喜びを味わう子どもたちを増やしていこうと実践に取り組んできました。左のグラフのように、今年度は、80.0% (H30→76.8% R1→77.0% R2→78.3% R3→79.6%)の児童が、「漢字を読んだり書いたり、計算をしたりすることがよくできる」と答えました。数値から、着実に成果が上がってきていることが分かります。そして、「算数の九九が言えるようになった」「漢字が書けるようになって文章を書くのが好きになった」という記述もありました。これは「Qubenaを活用した基礎学タイム」や「国語科・算数科の授業内での基礎練習の時間」の指導の成果だと考えます。来年度以降も、さらなる基礎・基本の定着を目指していきます。

漢字を読んだり書いたり、計算をしたりすることがよくできる」と答えました。数値から、着実に成果が上がってきていることが分かります。そして、「算数の九九が言えるようになった」「漢字が書けるようになって文章を書くのが好きになった」という記述もありました。これは「Qubenaを活用した基礎学タイム」や「国語科・算数科の授業内での基礎練習の時間」の指導の成果だと考えます。来年度以降も、さらなる基礎・基本の定着を目指していきます。

主体的に学ぶこと

児童への質問「『解きたい』『考えてみたい』と思いながら勉強することができますか」

保護者への質問「主体的に学ぶことができていると感じられますか」

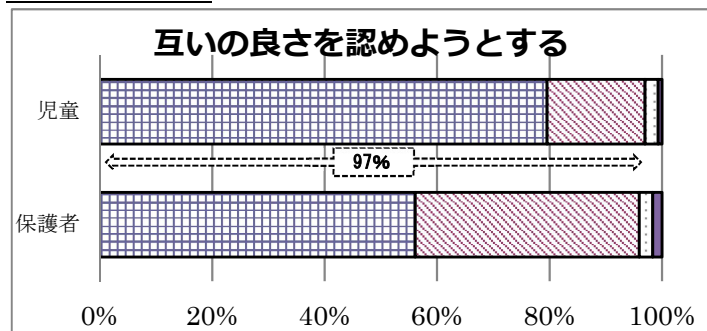


児童に比べ、保護者の「主体的に学ぶことができている」という割合が低くなっています。今年度は、2年目として、学校努力点で「子どもたちが主体的に学ぶ授業を目指して～『解きたい』『考えてみたい』～を大切に」をテーマに、学級担任を中心に授業実践に取り組んできました。子どもたちが「解きたい」「考えてみたい」と思える授業の導入方法や仕掛け、主体的な学び合いの方法などについて、試行錯誤しながら、職員一同、「主体的に」研さんに励んでいます。

互いの良さを認めようとする

児童への質問「友達の良いところを進んで見付けたり仲良く過ごしたりしていますか」

保護者への質問「友達の良いところを認め、仲良く過ごそうとして感じられますか」

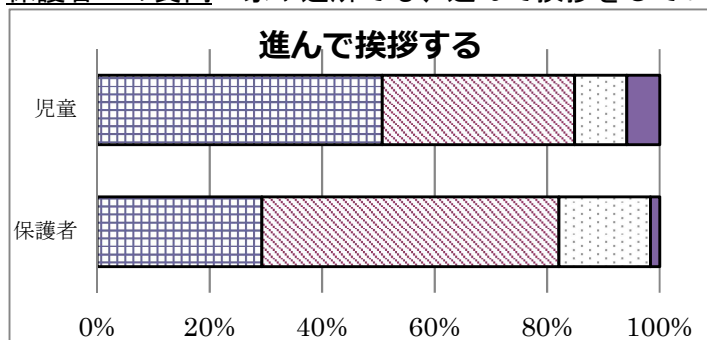


左のグラフからは、97%（R3→88%）の児童が「友達の良いところを進んで見付けたり仲良く過ごしたりしている」と答えていることが分かります。また、「友達が困っていたら必ず声を掛けている」「友達の良いところを伝え合っている」という記述も見られました。本校の合言葉である「なかよしじまん」の実現に向け、助け合ったり認め合ったり学び合ったりすることができるようになるよう、指導方法の工夫を重ねていきます。

進んで挨拶する

児童への質問「家や近所で進んで挨拶をしていますか」

保護者への質問「家や近所でも、進んで挨拶をしていると感じられますか」



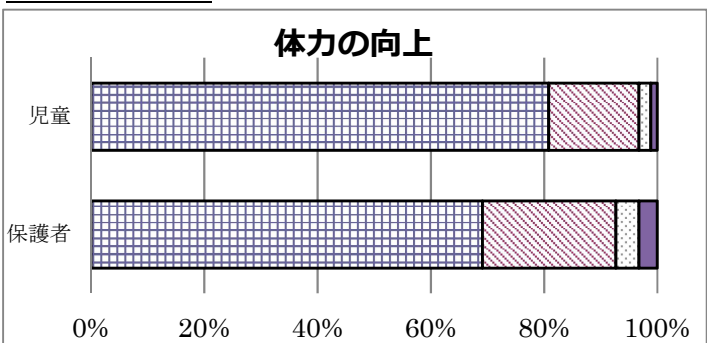
児童、保護者ともに、80%以上が「挨拶をしている」と回答されました。学校では、登下校時の「おはようございます」「さようなら」や、廊下ですれ違ったときに会釈をすることができる姿が見られています。これは中島っ子の自慢できる素晴らしい姿です。また「分団で登校するとき近所の人や旗当番の人に挨拶することを心掛けている」「教室に入るときにいつも挨拶をしている」という記述も見られています。コロナ禍の中で、

大きな声を出して挨拶をする訳にはいきませんが、このような姿が、ご家庭や地域でもさらに数多く見られていくように、引き続き指導をしていきます。

体力の向上

児童への質問「体育の授業を頑張って、運動ができるようになりましたか」

保護者への質問「体育の授業を通して、体力を向上させていると感じられますか」

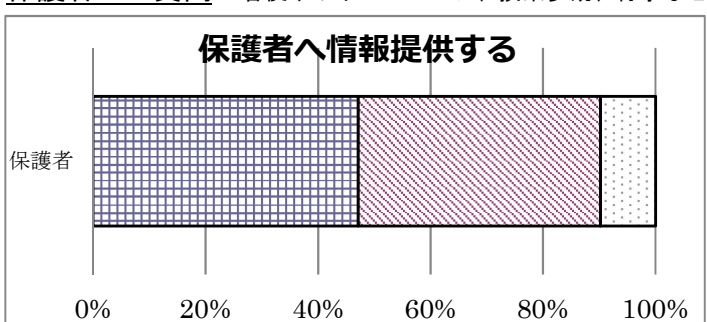


感染症対策を施しながらの授業ですが、運動場で楽しみながらリレーをしたり、体育館でボール運動に親しんだりしている様子が見られています。「縄跳びでたくさん跳べるようになった」「バレーボールをするとすっきりする」「台上前転が最初は怖かったけれどやってみたら楽しいしできるようになった」と、運動の楽しさを実感している記述が数多く見られました。今後も、体育の

授業の質を高め、児童の「できるようになった」という声がたくさん聞かれるようにしていきたいと考えています。

保護者へ情報提供する

保護者への質問「各便りやホームページ、授業参観、行事などを通して、学校・学年の教育方針が伝わっていますか？」



昨年度に引き続き、感染症対策を施しながら、制限のある中での授業参観や行事でしたが、保護者の皆様から高い評価をいただきました。これからも、教育方針をご理解いただくために、ホームページで児童の活動の様子を伝えたり、学校だよりや学年だよりで努力点に関わる授業の様子を詳しく紹介したり、授業参観で見所について分かりやすく説明したりしていきたいと考えています。